

PBA ジャパンリーグ ヨナル 2019 / 2020

## セキユウカップ・PBAベア

8月25日～9月1日 開催

会場：埼玉県入間市 PBAフジボウル

第2戦PBAリーグヨナルは、ベアのアニマルパターンで行われた。チーター同様、地区予選3地区とフジボウルで3シフトの予選が行われ総勢170名余が参加した。ポウラーなら誰でも参加OK、アマチュアにも賞金が出る国内希少のスポーツコンディションの大会として、今回も初出場の選手が13名を数えた。

PBAベア(41フィート)は、第1戦と比べ、少しは打ち合いの可能性が予想された。予選通過ラインはチーターよりも10ピン上がりアベ190となったが、如何にスペア確実にとるかが試合の分かれ道になることは変わらない。

今回は、試合形式が変わり、40名が3G投げ、上位16名が決勝ラウンドに進出する。ベスト16までに、PBAの有力プロや、ナショナルチーム選手が早々と姿を消す、波乱の展開となった。その後BOX4人打ちで、上位2名が次に進む方式で決勝まで進む。

ベスト8には、紅一点PBAプロ清水弘子が残る。さらにJPBAが2名、アマチュアが5名残った。(トーナメント表参照)。ベスト4のセミファイナルは、今大会好調の両手投げ鈴木健也(JBC)と、安定した試合運びで勝ち上がった藤井信人(JPBA)、さらに前大会の雪辱に燃える

白井康介(JBC)、唯一の左投げ初のセミファイナル進出の樋口慎一(NBF)の戦いとなった。その中決勝に勝ち上がったのは、202の藤井と、196の白井だった。

この二人は、2017年ベアで藤井を破って優勝した白井康介選手と、2018年ベア優勝の藤井信人選手の、まさしく因縁のベア対決となった。決勝スタート1フレ、藤井いきなりスプリットオープン。でも2フレからフィスを持って来る。一方の白井はダブルにスペアでオープンなし。6フレまで2マーク藤井がリード。白井必死で追いかけるがダブルが来ない。敗色濃厚の中間迎えた9フレーム。藤井がまさかの②、⑧、⑩スプリットでオープン。俄然白井にチャンスが回ってきた。10フレ、パンチアウトで優勝の可能性も。しかし1投目は厚く入り4番ピンが残る。白井左手を振り、悔しさを出す。一方の藤井は10フレ17ピンスペアを慎重にカバーし、優勝を確信。213対205藤井選手は、昨年に続きベア2連覇を果たした。

スポーツコンディションのPBAリーグヨナル。今回初出場の選手達は言う。「難しいコンディションの大会を初めて経験して楽しかった。また国内にはこんな凄い選手たちがたくさんいることが分かった。もっと腕を磨いてまた挑戦したい」来たれ、次期アスリートポウラーの挑戦を待つ。



PBA REGIONAL TOUR in JAPAN TOUR STOP2 決勝トーナメント



優勝

藤井信人

